

# Next Innovation

香川大学 研究シーズ活用レポート



研究シーズ活用のご相談は  
**香川大学産学連携・知的財産センター**  
〒760-8521 香川県高松市幸町1-1  
TEL.087-832-1672 FAX.087-832-1673  
本学研究者の研究成果は、HPより確認できます。  
<https://www.kagawa-u.ac.jp/faculty/centers/23894/>

## メキシコ駐在が縁で始まったプログラム

私は前職のマツダ(株)で主に研究開発部門に所属していました。その間、のべ13年程海外赴任し、国際戦略車の商品企画や現地法人の経営など自動車関連の仕事をしていました。日本に戻った後は、広島大に特任教授として出向したのですが、そこへメキシコJICAから「日墨戦略的パートナーシッププログラムで、研修生を1人指導してほしい」と連絡を受けました。メキシコは駐在していた国の1つで、現地との関係が非常に強くなっており、スペイン語も話せたので、その縁で頼まれたという背景があります。それで5年前に結局3人のメキシコ人を指導することになりました。

## 日本と中南米を繋ぐ国際ネットワーク

広島大で研究していたのは「イノベーション・エコシステムの形成」。メキシコ人の研究生と一緒の状況に危機感を持った人たちが立ち上げた「蒼島」というプロジェクトでは、花瓶やお皿、コップ、ドアストッパーなどの従来なかった製品を開発。主にアメリカの美術館などのミュージアムショップを中心に販売されています。また庵治石を混ぜて美しい青色のガラスを作ることに成功した「さぬき庵治硝子」など、調査を通じて新たな商品開発や販路に挑戦している方々に出会うことができました。

メキシコにもブエララ州という石材の採掘と加工をしている場所があるのですが、メキシコ国内の他産地が軒並み売上を落としている中で、ここだけ急成長を遂げています。こちらは建築に使う床材がメイン商品ですが、販売先がアメリカの富裕層という点で庵治の新機軸事業との共通点がありました。そこでこの研究を通して、香川県だけではなく、庵治町とブエララ州の2つの石の産地を繋いで、技術者の交流ができないかと考えています。既にブエララ州の州政府の経済省とも話が進んでいます。近いうちには是非、実現していきたいと思っています。

もう一つ広島大時代から続けているのが「グローバルファーストベ

に日本の産業を調査する上で、私が専門としてきた自動車のような耐久消費材ではなく、広島県の伝統産業である熊野筆を研究テーマとしました。筆を使う文化が衰退する中で、なぜ生き残っているのか。その手法が興味深かったからです。

## 日本とメキシコの石工産業を繋ぐ研究

広島大にはマツダ(株)からの出向で6年いましたが、任期が終了するタイミングで大学での教員を続けたいと、マツダ(株)を早期退職し、ポストの募集があった香川大へ異動してきました。JICAのプログラムとイノベーション・エコシステムの研究は、そのまま継続。熊野筆に代わる香川県ならではの研究テーマを探していたところ、見つけたのが庵治石です。高級墓石の材料として有名な庵治石ですが、需要の減少などにより売れ行きが低迷し、また後継者不足に

ンギンクラブ」です。これは日本と中南米を結んで、起業家教育を一緒にしようという試み。香川大に、メキシコのメキシコ国立自治大、コロンビアのロンビア国立大、ベルギーの国立サン・マルコス大、ポリビアの私立サンタクルス工科大が参加し、年に数回オンラインで新たな起業アイデアを提案するピッチイベントを行っています。さらにコロナ禍で中断していますが、スペイン参加の話も進んでいて、実現すれば全スペイン語圏を広く結ぶネットワークができることになるので非常に楽しみです。



香川大学 創造工学部 教授  
**平見 尚隆**  
マツダ株やフォードにて主に商品企画領域を担当。ラ米諸国の大学や諸機関との起業家育成関連の活動などを通じネットワークを形成中。ケンブリッジ大学 Ph.D.、中小企業診断士、2021年4月より現職。



平見教授が中南米で撮影した鮮やかな野鳥の写真。腕前はプロ級で、雑誌にも定期的に掲載されています。



平見尚隆教授のHPはこちら



庵治石の新たな可能性を探る  
庵治石の調査チームは実際に産地へ足を運び、石切り場や加工場はもちろん、新たな製品の開発を進めている現場まで、様々な場所で、実際に生産に関わる人たちのインタビューや調査を行っています。